

# 大阪府感染症発生動向調査週報（速報）

2023年 第25週（6月19日～6月25日）

## 今週のコメント

～ヘルパンギーナ～ 手洗いの励行と排泄物の適切な処理が重要

### 定点把握感染症

「ヘルパンギーナ 警報レベルで、さらに増加」

第25週の小児科・眼科定点疾患の報告数の総計は3,571例であり、前週比1.7%増であった。定点あたり報告数の第1位はヘルパンギーナで以下、感染性胃腸炎、RSウイルス感染症、A群溶血性レンサ球菌咽頭炎、咽頭結膜熱の順で、定点あたり報告数はそれぞれ7.65、3.71、2.61、2.44、0.89である。

ヘルパンギーナは前週比17%増の1,468例で、大阪市北部13.43、北河内11.84、泉州9.20、中河内8.35、大阪市南部7.56であった。

感染性胃腸炎は15%減の712例で、南河内6.13、三島5.19、豊能4.55である。

RSウイルス感染症は3%減の502例で、南河内6.19、大阪市北部5.00、北河内2.92であった。

A群溶血性レンサ球菌咽頭炎は9%減の469例で、南河内3.69、北河内3.60、堺市3.42である。

咽頭結膜熱は1%増の170例で、大阪市南部1.56、泉州1.20、南河内1.13であった。

新型コロナウイルス感染症(COVID-19)は前週比14%増の1,506例で、定点あたり報告数は5.16である。堺市6.10、北河内6.05、大阪市西部5.80、大阪市北部5.70、南河内5.58であった。5類感染症に変更された後、第20週以降6週連続で増加している。

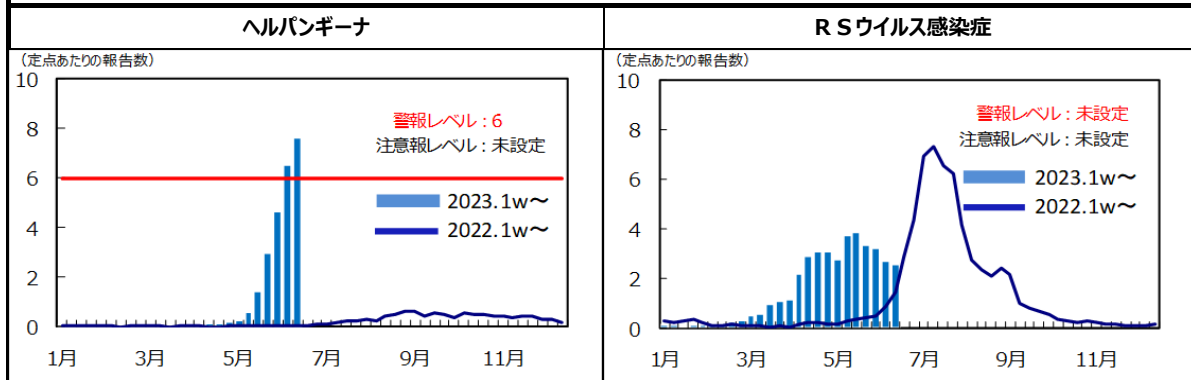


表1. 大阪府小児科・眼科定点把握感染症の動向（2023年 第25週6月19日～6月25日）

第25週の順位	第24週の順位	感染症	2023年 第25週の 定点あたり 報告数	前週比 増減	2022年 第25週の 定点あたり 報告数	2023年第25週の 年齢別 患者発生数 最大割合値
1	1	ヘルパンギーナ	7.65	17%増	0.03	1歳_20%
2	2	感染性胃腸炎	3.71	15%減	5.60	1歳_14%
3	3	RSウイルス感染症	2.61	3%減	1.35	1歳_33%
4	4	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	2.44	9%減	0.39	5歳_18%
5	5	咽頭結膜熱	0.89	1%増	0.70	1歳_26%
参考		新型コロナウイルス感染症 (COVID-19定点報告疾患)	5.16	14%増	-	10歳-19歳_22%

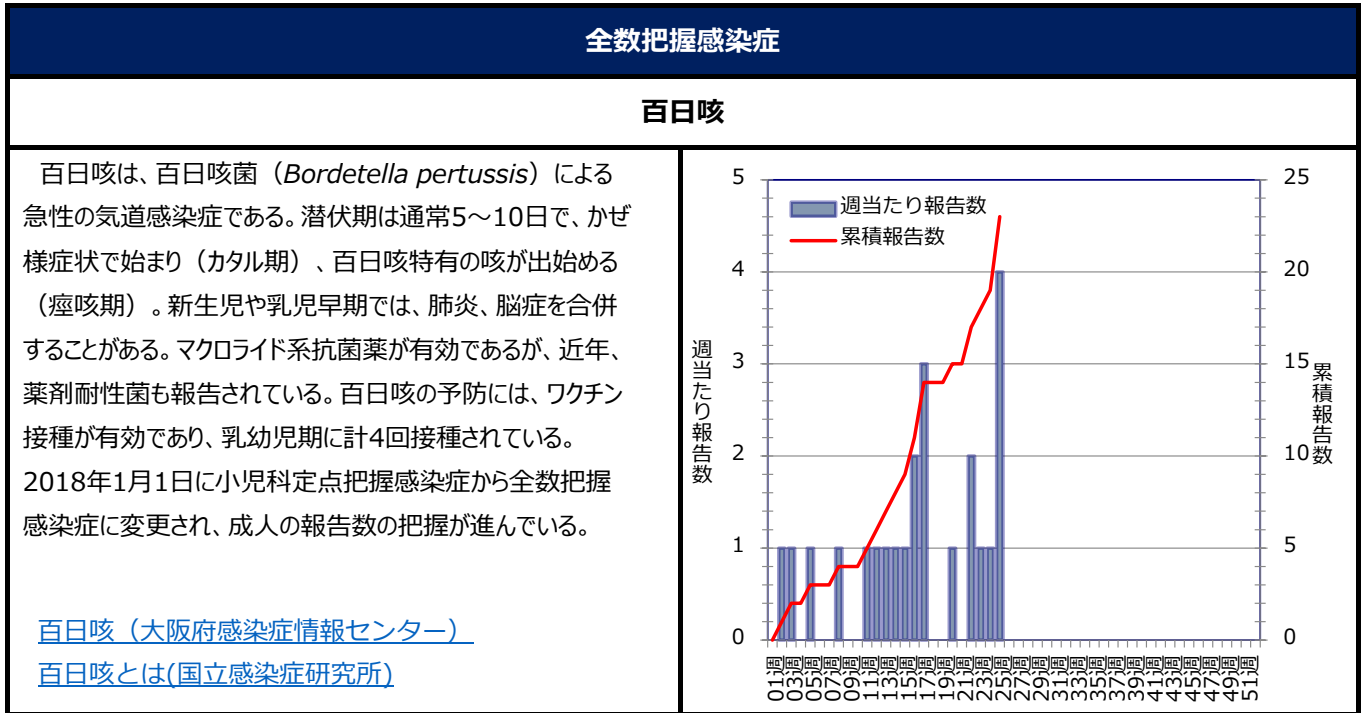
新型コロナウイルス感染症は、定点種別が異なるため、参考として記載しています。

詳細はリンク先の『令和2年11月2日以降』の情報をご覧ください。

突発性発疹については、(1)季節変動はないこと、(2)毎週の定点あたり報告数は一定していること、(3)年次による差異もほとんどないことから、本文には詳細に記載していません。

## 第25週のコメント

～百日咳～ 生後2か月からの予防接種が重要



**表2. 大阪府全数報告数（2023年 第25週6月19日～6月25日）**

注意：この週報は速報性を重視しておりますので、今後の調査に応じて若干の変更が生じることがあります  
 （報告があった疾患のみ記載しています。詳細は感染症情報センターホームページ>【週報】>全数把握疾患 をご覧ください。）

	疾患名 ( )内の病型は今週報告分のみ 府内累積報告数の内訳は省略	報告数	府内市町村								府内累積報告数
			豊能	三島	北河内	中河内	南河内	堺市	泉州	大阪市	
3類感染症	腸管出血性大腸菌感染症	9			3	1				5	54
4類感染症	レジオネラ症（肺炎型）	2			1					1	63
5類感染症	アメーバ赤痢（腸管型）	1		1							22
	カルバペネム耐性腸内細菌目細菌感染症	4	2	1	1						65
	後天性免疫不全症候群	3								3	35
	侵襲性インフルエンザ菌感染症	1							1		27
	侵襲性肺炎球菌感染症	1							1		72
	梅毒	20	1			1			2	16	985
	百日咳	4	2						2		23
結核 (2023年4月分)	<b>結核 新登録患者数：87名</b> (内 肺・喀痰塗抹陽性 25名) (府内累積報告数 358名、内 肺・喀痰塗抹陽性 128名)										

(2023年6月27日 集計分)